2015年（平成27年）11月10日（火）夕刊　毎日新聞

憂楽帳

一人じゃない

生まれつき体は男性だが、心は女性の性同一性障害（GID）である福岡市の美咲さん(47)。物心ついた頃から性に違和感を覚え、スカートをはくと落ち着く一方、中学時代に丸坊主にさせられたのは地獄のような日々に感じたという。

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大大学院教授の元には、ひげが生えたり、胸が大きくなったりして思い悩む学齢期の子どもが通院する。深刻なケースでは自殺未遂を繰り返したり、不登校に陥ったりする子もいる。

美咲さんはそこまで深刻にならなかったが、違和感を抱え成長。事情を分かってくれた女性と結婚し、一児をもうけた。それでも「男のまま死ぬのは嫌だ」との思いが募り、一昨年、妻にGIDだと告白した。性別適合手術を受け本来の性に戻って生活している。

ただ、GIDの人が差別や偏見を受けない社会を目指す「gid.jp」九州支部に入るまで同じ境遇の人と接したことはなかった。今は副支部長を務める美咲さんは「交流を通じて前向きに生きられるようになった。一人で悩まず相談してほしい」と呼びかけている。

【山本太一】

2015.11.10